

I. はじめに

持続的な教育支援と京都大学の教育のさらなる展開に向けて

高等教育研究開発推進センターは、国立大学法人の第3期中期目標・中期計画期間において、京都大学の教育改革・改善をより広範にわたって一層強力に支援・推進するため、以下の新たなミッションと共に、2016年度から「全学機能組織」として再出発しており、今年度で5年目になります。

- 高等教育における教授法、教育課程、教育評価、教育制度、ICT活用等、教育システムにかかる開発と実践を行う。
- 京都大学の教育改革・改善に資する取り組みについて、専門的立場から調査・企画・実施・評価・助言・協力を行う。
- 実践的研究に基づく成果を、京都大学の教育の質の向上に供するとともに、国内外の高等教育の発展に寄与する。

現在、本センターは、「高等教育教授システム研究開発部門」、「教育メディア研究開発部門」、「教育アセスメント室」の2部門・1室から構成されており、様々な教育支援の取組を通して、多面的・創発的な教育改革・教育改善に取り組んでいます。この「CPEHE Annual Report」では、学内各部局や関連諸機関との連携を通じた先進的・萌芽的な試みも含め、本センターの様々な活動や事例が具体的に紹介・報告されています。

ご周知のように、2020年は、新型コロナ禍下における京都大学のオンライン授業・ハイブリッド授業の準備・実施の支援に本センターが一丸となって尽力・邁進した未曾有な年となりました。教職員向け学内講習会・相談会や支援サイト「Teaching Online@京大」などを通じたオンラインでのサポート情報・リソース提供を、情報環境機構や各部局の教職員の皆さまと緊密に連携しながら迅速に進められたこと、また、本センターが支援し長年に渡って実施されてきた「全学教育シンポジウム」、「新任教員教育セミナー」、「大学院生のための教育実践講座」等の全学的FDも、今年はオンライン開催という新たな形で無事挙げてきたことを、この場を借りて関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

FD・教育改善支援については、この他にも、文学研究科ブレFDプロジェクトやその発展的プログラムである大学コンソーシアム京都を通じての「単位互換リレー講義」のサポート、薬学部への授業改善や学生の学習実態調査の支援、医学教育・国際化推進センターとの連携による「指導医のための医学教育学プログラム」や宇宙総合学ユニットの「有人宇宙活動のための総合科学教育プログラム」におけるカリキュラム設計・評価支援等、多くの学内部局やプロジェクトと連携し、それぞれのニーズに合った教育支援に専門性の高い貢献を通じて取り組んでいます。

ICTを利用した先端的な教育・学習支援については、国内のMOOCプロバイダである日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)に京都大学が今年から加入し、国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センターからオンライン講義の提供が開始されました。また、ハーバード大学がedXの協力と共に開始したオンライン科学教育プラットフォーム「LabXchange」に、京都大学がKyotoUxを通じて配信しているMOOCのオンライン講義ビデオの提供を始めるなど、国内・海外に向けた京都大学の新たな教育貢献の展開に対しても、センターのより一層の支援が推進されています。この他にも、各部局のオープンコースウェア(OCW)や大規模オープンオンライン講義(MOOC)の取組状況や、京都大学の学生・高校生・社会人に向けたオンライン講義(SPOC)等、より柔軟・多様で拡張的な教育・学習方法を実現するオンライン講義・教材の活用について、様々な取組事例とその効果・成果が、本報告書、教育的ICT活用ポータルサイト「CONNECT」や高大接続・高大連携支援ポータルサイト「KNOT」で詳しく紹介されておりますので、今後の各部局における企画や取り組みのご参考にしていただければ幸いです。

さらに、学内の各教育支援組織・部局との連携を通じて全学・各部局の教育学習改善支援の一翼を担う本センターの教育アセスメント室の活動として、オンライン授業やハイブリッド授業等に関する全学教員調査、各部局における教育の質評価・学生調査、MOOC・SPOCの実施分析・成果に関する講義担当者へのフィードバックや学習データに基づくコース改善等の取り組みについても報告されています。

最後になりましたが、本報告書で網羅されている諸活動や各部局への定期的なヒアリング、ウェブサイト(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp>)等を通じ、本センターが、今後とも京都大学の教職員の皆さんや各部局の抱える様々な教育的課題の解決・改善のお役に立てれば幸いです。京都大学の教育のさらなる発展とそのための支援の充実に向けた本センターの活動に、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



京都大学高等教育研究開発推進センター長
飯吉 透